

日新

苟日新 まこと ひ あら 苟に日に新たに
 日日新 ひ び あら 日々に新たに
 又日新 また ひ あら 又日に新たなり
 出典 「大学」

日新地区だより 63号

ゆめ
 にっしん

「ゆめ・にっしん」は、平成18年2月創刊。「日々に新たに」ゆめある日新まちづくりの一翼を担い、地区文化の向上を願って今日に至っています。

発行：まちづくり日新 広報部会
 福井市文京5丁目1-8 日新公民館
 発行日：令和4年（2022年）9月3日

今年の夏の猛暑と大雨、その影響は日新地区にも

7月より気温が上がり猛暑日が続き、豪雨もありました。これは台風5号の影響で南からの温かい空気が流れ込んだことが原因であると気象庁は発表しています。また、やっかいなことに、この暖かい空気と上空の冷たい空気がぶつかることで積乱雲が発生し、豪雨になったようです。

当然、福井県も8月初旬に発生した記録的短時間大雨により、8月4日の午前中に洪水警報を発令8月5日の午前中から災害対策会議を開催しました。8月5日から本格的に降り続いた雨は、福井県のほぼ中央である南越前町で起きた土砂崩れや浸水を起こし、この影響で北陸道・国道8号線・JR北陸線のすべてが寸断され県の北部と南部が行き来できない状態となりました。その後、復旧が進み8月9日の早朝5時に国道8号線の通行止めが4日ぶりに解除され、8月10日午前0時に北陸道が一部解除されたものの全面解除には8月末なる予定です。JR北陸線は11日武生・敦賀間が復旧しました。

将来のことを考えると、新幹線が開通していたならば大きな災害になり復旧までには多額の費用が掛かると思われます。

この大雨による日新地区でも同時に底喰川が越水しました。掲載した河川カメラ映像は8月4日から10日までのものです。

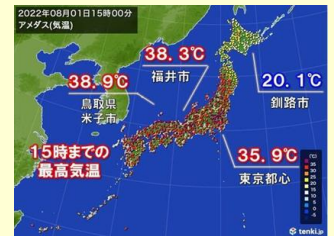
ミソハギの花が4日午前中の時点では咲き誇っている様子です。(写真①)

その日の夕方には完全に水没した様子です。(写真②)

6日のまつり当日は泥を被ったミソハギです。(写真④)

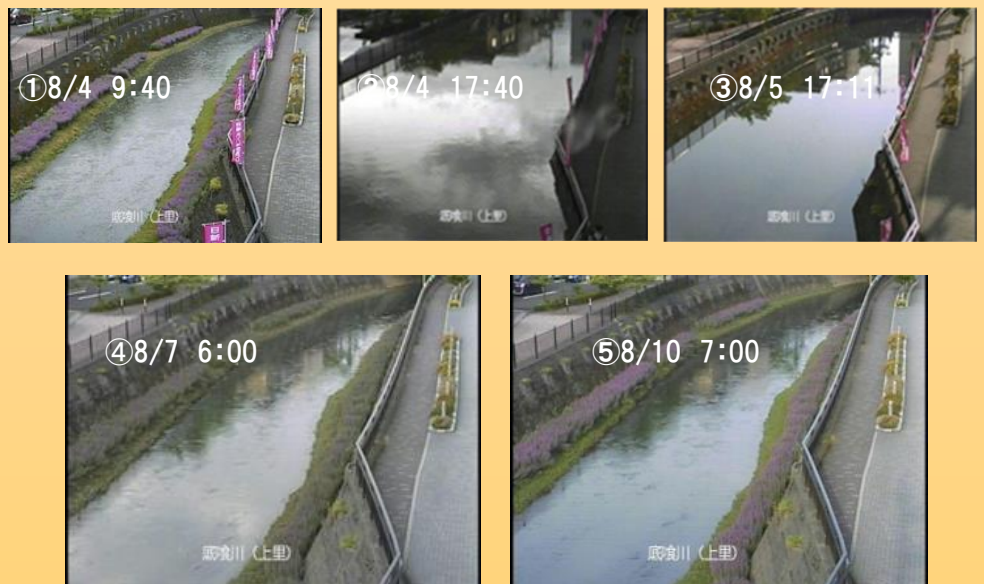
7日に紫の色に戻り始めました。(写真⑤)

10日には以前のように咲き誇っています。(写真⑥)



気象庁天気図より

福井県 河川砂防総合情報 河川カメラ画像(底喰川)より



地球温暖化とまちづくり日新の接点？

世界各地で集中豪雨・大型化した台風・猛暑(酷暑)などの異常気象が増加しているように思えます。その一つが上記の福井で起きた8月初旬の豪雨でしょう。この原因は地球の周期的な気候変動の自然的な要因説と近年の温暖化による要因説に分かれているようです。どちらにしても、我々の暮らしを脅かしていることには変わらないようです。それでは対策は？人類が生活するうえで伴う二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量を減らす、森林破壊を減らすことのように。この2点を考えるとまちづくり日新が行っている「さんさんバスの利用促進」と「底喰川の美化」はほんのわずかなことかもしれませんが理にかなっている気がします。(異常気象とは数ヶ月程度の変化、気候変動はもっと長い期間による変化のことです)

底喰川のミソハギ花まつり

日新地区自治会連合会会長 橋本鉄弥

日新地区内を東西に流れる底喰川の両岸には、お盆の頃になると、ピンク・赤紫色の花が帯状に美しく咲き誇っています。

平成 29 年に始まり 6 回目を迎えたこのまつり、近年の異常気象の多雨で溢れんばかりの川の流が見られ、2 日前まで開催が危ぶまれましたが、無事に 8 月 6 日(土)午後から「第 6 回日新ミソハギ花まつり」が開催されました。まつりでは、ミソハギ鑑賞ウォーク、ガラポン抽選会、子どもクイズ、そして参加者全員に粗品プレゼントと趣向がなされました。多くの参加者達の笑顔と子供達の歓声が印象的でした。



地区人々による定期的清掃で美化が保たれている底喰川で、濁流にも負けることなく可憐に咲き誇っている一本一本の「ミソハギ」が日新地区に数少ないレガシーとして又地区の「シンボル」として、これからも咲き続け、ミソハギ花まつりが継続できることを願っています。

【今年のミソハギ花まつりの様子】

前日の大雨で底喰川は、当日の水位は下がったものの、ミソハギの花は泥を被り赤紫色を失いちょっと寂しいかな？それでも、実委員会の皆さんは、前日には底喰川の両岸に数十本の幟を立て、昨年と同様に祭り当日の午後からテント張り、抽選会の商品の搬入などの準備に汗を流しておられました。暑い中での作業お疲れ様です。

いよいよ、祭りが午後 3 時の最も暑い時に開催されました。数組の参加者は開催時間前に受付に並びました。受付後ミソハギ観賞ウォーク(約 200mを歩く)、受付まで戻って抽選をし、子供達には簡単なクイズをしてもらいました。参加者は昨年より 70 人ばかり増え 182 人でした。



8/4 越水した底喰川



8/6 の朝



…準備中…



一番乗り



暑い中でも笑顔



頑張って挑戦



木陰が欲しいよ



日陰であってもテントの中は暑いです



川沿いをウォーキング



公民館前で物思い



主役のミソハギは..



お疲れ様でした

特殊詐欺に注意



日新交番の木原署長が地区のパトロールをされ、地区内には高齢者が多いこともあり特殊詐欺に関するパンフレットを配布されていました。「不審な電話・^{ショートメール}SMS・メール・はがきなどによる詐欺犯罪が往々しています。注意して下さい」とのことでした。警視庁のホームページに「**様々な詐欺**」がのっていました。(警察庁・SOS47 から)一部を紹介します。

| | |
|------------|--|
| オレオレ詐欺 | 子供や親族が起こした事件・事故に対して関係者を装い金銭をだまし取る詐欺 |
| 預貯金詐欺 | 警察官・銀行員・市町村職員を名乗り、「払戻金がある」「キャッシュカードを取り換える必要がある」などと言葉巧みにキャッシュカードや預金通帳をだまし取る詐欺 |
| キャッシュバック詐欺 | 警察官などと偽って電話をかけ「キャッシュカード(銀行口座)が不正に利用されている」「預貯金を保護する手続きをする」などとして、嘘の手続きを説明した上で、キャッシュカードをすり替えるなどして盗み取る詐欺 |
| 架空料金請求詐欺 | 未払いの料金があるなど架空の事実を口実とし金銭等をだまし取る詐欺 |
| 還付金詐欺 | 自治体、税務署、年金事務所の職員などと名乗り、医療費・保険料の過払い金や、一部未払いの年金があるなど、お金を受け取れるという内容の電話をかけ、被害者が犯人の指示通りにATMを操作すると、実際には犯人側の〇〇口座にお金が振り込まれるという詐欺 |
| 融資保証金詐欺 | 「無担保、低金利、保証人不要で融資可能」などと書かれたハガキ・SMSが突然届き、大手企業のロゴが記載されているため、軽い気持ちで電話をしてしまうと… |
| 金融商品詐欺 | 未公開株や社債などへの投資や商品購入に関するパンフレット・ハガキ・SMSが突然届き、その後、犯人から電話がかかってくる… |
| ギャンブル詐欺 | 雑誌やインターネット記事、電話やメールなどで「パチンコ、パチスロの必勝法」「公営ギャンブルの必勝法」「宝くじの当選番号」などを教えると持ちかけ、その情報によって当選金や配当金が得られるものと信じ込ませる… |
| 交際斡旋詐欺 | 雑誌やメールに記載された「女性紹介」等の案内に申し込んできた人に対して、会員登録料金や保証金等の名目で金銭等をだまし取る詐欺 |

本当にたくさんのものが載っていました。

特に甘い言葉には用心をし、次ような電話や郵便物・メールなどは「詐欺」を疑いましょう。



- ハガキなどにある連絡先には連絡しない
- 融資のために「保証金が必要」は詐欺
- 「必ず儲かる」などうまい話はない
- 「必ず当たる」「事前にわかる」はウソ!
- 「デートするだけでお金がもらえる」はウソ!
- 迷惑電話防止機器を利用する
- お金を払う前に、家族に相談する

本当に注意したいものです。

今年の花まつりまでのミソハギ管理の半年間は、コロナ感染拡大と、地球温暖化で真夏日増大の日々が続いた。まちづくり日新の大きな柱となるミソハギ花まつりへの計画実行は、さらに厳しかった。6月23日の福商生ボランティアで計210人



7月17日の一斉清掃で65人、4～7月の定例清掃は72人、その他特定の有志は70人以上、この方々の協力のおかげで8月6日のまつりを迎えるはずであった。今までにない花を觀賞するつもりであった。

しかし、再三、日本を襲っていた線状降水帯が8月4日にここ福井にも来た。バケツをひっくり返したような雨、底喰川の増水、上里橋の左岸では溢れ出すくらいとなった。泥水の下にミソハギが隠れ、丸一日浸った。花は汚れ、最悪の花の状態、穂先20cmの小さい花は見られたものではない。でもミソハギはじっと我慢をしていた。日ごとに色は増し500mに渡る赤紫のリボンが「見に来て今よ！」と言わんばかりに見えた。この気持ちが祭りに参加した182人に伝わり来年も継続できることを願う。今日は8月16日のお盆である。

日新地区の皆さんお元気ですか？新型コロナウイルス第7波の感染者数が8月19日に全国で新たに26万人を超え福井県でも1863名と過去最多を更新する結果に至った。病床使用率も非常に高くなり、コロナ患者の診察が極端に多く、挙げ句に一般外来の対応と診療が極めて不自由な状況に至り、今や医療体制が崩壊寸前にて逼迫の状況にあります。対策もなく(ワクチンのみ)。投薬も、検査キットも足りなく・・・不透明なる先行きの見通しでは有りますが、お互いに一人一人が自己責任において体調管理を十二分に心掛けて毎日の生活に対応しなければなりません。

この様な社会環境体制にあって私達コミュニティーバス運行協議会は

[第3次本格運行承認の為に]

12年目を迎えるまちづくり交通部会も現在の厳しい状況の中で新たなる戦略戦術を考慮しながら、検討を重ねております。

具体的内容は

- ①企画會対応メンバーの選定(まちづくり協力メンバー5名、市役所2名、京福2名、以上9名)
- ②従来の基準値の変更(市役所活性化会議にて決定)
(一車5名、収支率25%、月次平均乗車値600名)⇒(一車4名、月次平均乗車値480名)
- ③新ルートの改正計画(みつわ、メガドンキコース、新図書館を通る)
- ④コース内容の検討
- ⑤促進企画 その他



上記内容テーマを令和4年度(4月より以降3回の打ち合わせ)検討会議の開催し現在に至っており、第3次本格運行に際しての承認企画としての計画立案として、月次乗車人数はかつては650名～700名前後が200名～250名に減少に至っており、勿論イベント関係(映画会・佐野温泉・カラオケ・食事会)の中止は有るにしても、是非とも新たなる企画内容を運行事業の糧となるべく、大きなプラス要因に変えて強力に押し進めたく思います。

◎高齢者(後期高齢者800名)の活動援助の為に

◎身障害、独居老人(300名)の活動援助の為

私たち交通部会は今事業を通じて少しでも地域の皆様の方々のお役にたてべく鋭意これからもまつづくい一同努力を重ねてまいります。今後とも宜しくお願いします。

まつづく日新の活動である「底喰川の美化運動」に支えられ、天候不順の中でも「ミソハギ花まつり」も無事に終わりました。



もう一つのまちづくり活動の「さんさんバスの運行事業」も地域の人達の要望を取り入れた新しいイベントや新ルートを考えながら継続されようと頑張っておられます。一つ一つの事業を成し遂げていくのは大変難しいことです。「面倒くさいからやめればよいのでは」という意見もあるかもしれませんが、一度消えた火を再びつけるには大変なエネルギーを必要とします。

出来ることは、みんなで協力し、地域の行事を手伝い、参加し、地域の活動を応援したいものですね。